



令和8年7月27日(月)
しなやかに生きる子ども

2学年 音楽科
「くりかえしを見つけよう」

「ぼくは、こんなくりかえしをつくってみたよ。きみのは？」

音楽科では、音楽のよさを分かち合い、思いをもちながら音を「愉しむ」学びを目指します。これは、単に技能を習得することや、知識を覚えることをゴールにするのではなく、音楽の楽しみ方を知ること、より豊かに「しなやかに生きる子ども」を育むための学びです。「くりかえしを見つけよう」では、おまつりの音楽（太鼓のリズム）を考える音楽づくりの学習を行いました。他者をつながり合うことで、子どもたちが「反復」のよさに気付けるよう、場の設定や子どもの言葉の取り上げ方を工夫しました。近くの友達がたたいているリズムを横で聴きながら、「いいね。」と感じている姿、「どうやって考えているの？」とクロームブックをのぞき込む姿、考えた音楽を発表し説明する姿から、小さいけれど様々な気づきが生まれた様子が見られ、音楽を愉しみ、考えを深めることができていたのではないかと思います。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者をつながり合い、“楽しい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切にしたい授業の在り方を探っていきます。

音楽科 2年「くりかえしをみつけよう」より

視点1

多様な個が生きる教材化

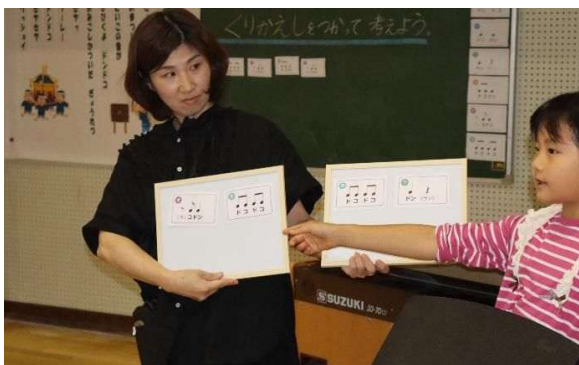
今回の音楽づくりでは、「反復」のよさを子どもたちに気付かせ、そのよさを生かしておまじりの音楽を作り上げる学習を行いました。どの子も安心して音作りに参加できるように教材化を進めました。試してつくった音楽を再現してくれる ICT コーナー、リハーサル会場、本番会場の 3 つの場の設定をすることで、子どもたちが自分の技能や自信に合わせて自由に場を往来できるようにしました。いきなり太鼓を叩くのが不安な子には、上手くいかなくても何度でも作り直せて試すことができるデジタル教科書を活用しました。自信のない子が、隣で活動している友達がどんな音を作っているのか、ちょっと覗いてみたり、「どんなふうにつくったの。」と声をかけたりして、個の学習が広がったり深まったりできるよう、個人でもつのではなく、コーナーに数台置いて一緒に使うようにしました。

また、様々な学習段階に合わせて、3 つの場を作ることで、子どもたちはそれぞれに見通しをもち、学習に臨んでいる様子がみられました。



多様な個が生きる教師の立ち位置

視点2



「上手な演奏」を正解とするのではなく、そこに至るまでの子どもの迷いや変更を肯定的に受け止めるようにしました。自信をもって安心して表現活動ができる環境づくりは、音楽の学習には必須であると考えます。イメージと違うからと何度でも作り直す姿を「よりよい表現を探している価値ある姿」と捉えることで、その思いは子どもたちに伝わると考えています。「どんなイメージ。」「どうして変えたの。」と問いかけることで、子どもなりの思いや意図を引き出して価値付ける関わりを大切にしました。

また、個々の活動で終わらせず、それぞれの「個」がもっているよさを全体の学びに広げることが意識しました。「個の感覚」を言葉にして他の子どもたちが共感したり理解できるように、橋渡しをすることで学びを広げ、他者と比べて自分の音楽をもう一度考え、深められるようにしました。